

アラカルト

東京都個人タクシー協同組合営業部次長



菅野哲也さん

tetsuya sugano

組合士の取得は通過点 日々勉強!

「でんでん虫の個人タクシー」として知られる東京都個人タクシー協同組合（本部・東京都中野区、略称「東個協」）は、昭和38年創立、組合員数約1万名を擁する国内でも有数の大規模組合だ。タクシーチケットの収益や燃料販売などの運行・車両に関する事業のほか組合員の健康管理などの福利厚生事業などが主な業務である。東個協営業部次長の菅野哲也さんにお話を聞いた。

●組合士は「合格後」が大事

菅野さんは、平成5年に検定試験に合格、東個協で初の組合士となった。

「最初は営業部で、勤続10年目に経理部へ異動となりました。経理がわからなかったので、その勉強のために東京都中央会が開催する講習会の会計や簿記の講座を受講したのですが、そこで組合士の存在を知り、受けてみようと思ったのです。自主的というか、落ちたら恥ずかしいので、実は上司にも内緒でした（笑）」と当時を振り返る。

「合格した時には、『さあ、これからだ』と思いましたね。組合士の資格は、組合維持のために必要な第一歩であり、合格後の方が大事だと思います。仕事のモチベーションアップにつながりますし、勉強で得た知識は業務の基本になっていきます」

その後は東個協内で少しずつ受験者が増えて行く。現在、東個協の約100名の本部職員のうち組合士は15名を数える。2名の女性を含め20代の若手から50代の

ベテランまで幅広い。

「検定試験受験に係る講習会の参加費用などの経費を組合が負担しますが、受験は強制ではなく、あくまでも自主性に任せています。『1組合1組合士』といわれますが、当組合は職員の数も多いので、目指す者も多いのだと思います」

3年ほど前から合格者には本部で理事長が表彰する制度もあり、これも励みになる。

●自分ももっとがんばろう

再び営業に戻った菅野さんの現在の業務はタクシーチケットとクレジットカード関連の業務が中心である。「組合士の資格は直結していませんが、業務のベースにはなっていると思います。タクシーチケットは、官公庁、大企業を中心に約5,000社からご契約をいただいております。景気も悪くて厳しいですが、私たちを選んでいただけるように努力しています」

中央会の講習会や組合士協会の総会などでの異業種交流もいい刺激になる。

「組合のためにがんばっているたくさんの方々とは交流できるのも、組合士になってよかったと思うことの一つですね。組合士の中には80代の方もいらっしゃるのです。『生涯、勉強です』とおっしゃっているのをお聞きすると、自分ももっとがんばろうと思います」

●お客様を第一に

バブル崩壊後、タクシーを利用する客数は減少の一途をたどっており、業界は規制緩和による供給過剰、その後の緩和の引き締めなどもあって業績が低迷している。特に、平成21年秋にタクシー特措法（特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法）施行により、個人タクシーは新規許可試験の実施が凍結され、新規参入できないことから組合員が減少傾向にある。

「組織人員の維持も大切ですが、お客様あってこそこのタクシーですから、組合員（運転手）の質の向上が最大の課題です。最低限のサービスとしての『安全で安心、快適な空間』の提供のために今後も努力してまいります。運転手の質の向上のためのマナー講習会なども継続し実施していきます」

地域社会への貢献として組合本部周辺や駅などのタクシー乗り場などの清掃活動も推進している。これも職員が自主的に始めたものだ。

「組合士は、組合と組合員のことだけを考えていてもダメなのです。組合として地域に貢献し、個人タクシーを好きになってもらうことと、お客様のニーズに応えることが結果として組合の利益になると思います」

東個協の躍進は、タクシー業界全体の活性化にもつながっていく。努力を心から応援したい。